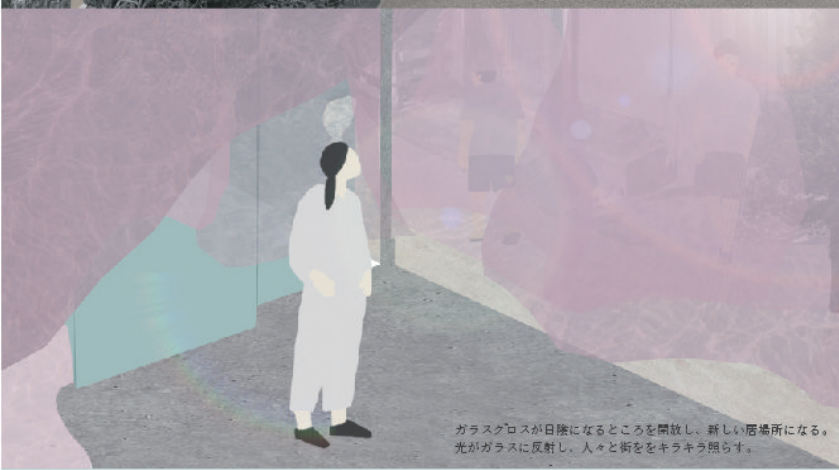




空き家に纏ったガラスは、まちにその存在を映し出す。



ガラスクロスが日陰になるところを開放し、新しい居場所になる。光がガラスに反射し、人々と街をキラキラ照らす。

ガラスクロスと反射するやわらかな光が、カラフルな都市の風景を作り出す。

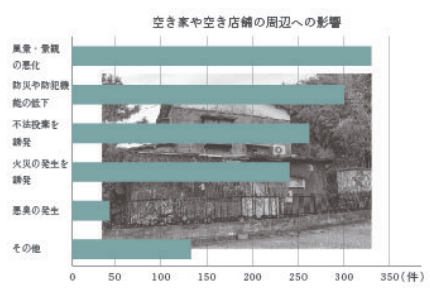


纏い包むガラス

現在日本には数多くの空き家が存在する。これらは活用されるか解体されるまでそのままに放置されており、街からは空き家なのかどうかも分からず、社会から取り残されている存在だ。そこで一部内壁と外壁をSDコート塗装したガラスに取り替え、ガラスクロスで纏わせる。空き家活用まで、ガラスによって家は植物のように呼吸をし、老朽化を防ぎながら保管され、街にその存在を映し出す。

増え続ける空き家問題

日本での空き家は増加し続けている。この20年で約1.8倍(448万戸-820万戸)となっている。街の中の空き家の存在は、風景・景観の悪化、防犯機能の低下など、厄介で敬遠され放置されている。空き家バンクなどで活用する取り組みがあるが、その地域でその問題が可視化され気づかれなければ根本的な解決にはならないのではないか。



映し出される「空き家」

ガラスを用いた行為により、空き家問題はまちに映し出され、人々に色鮮やかな居場所を提供する。

